

《2018年11月（通算267回）月例会報告》

\*\*\*\*\*

# サッカーの戦術を構築する

北田典央

\*\*\*\*\*

【日時】2018年11月17日（土）17：25～19：30（終了後は「景宜軒」。22時過ぎまで盛り上がる）

【会場】筑波大学附属高校3F会議室

【テーマ】サッカーの戦術を構築する

【演者】北田典央（会社員）

【参加者（会員・メンバー）6名】

北田典央（会社員/サッカー好き）、小池靖（さいたま市/サッカースポーツ少年団指導者）、  
斎藤芳（桜丘高校）、徳田仁（㈱セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、  
守屋俊秀（世田谷サッカー協会）

【参加者（未会員）3名】

守屋佐栄、吉井柊二（日体大4年/筑駒コーチ）、国島栄市

【2次会終盤から参加】竹中茂雄

【報告書作成者】斎藤芳（桜丘高校）

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません（ご本人の了解が得られた範囲で公開しています）

【目次】

1. はじめに
2. 戦術とは
3. 勝つためにどのような練習をするのか
4. ワークショップ
5. まとめと感想



## 1. はじめに

本日発表をさせて頂く北田です。発表の機会をいただきありがとうございます。ずっとサッカーをやってきましたが、ここ2、3年は仕事の関係でやめている状態です。サロンには5年前に始めてきて今回で発表は2回目となります。小池さんとはよく話をしていますがバージョンアップしているところもあるので聞いていただけたらと思います。

本日の目的と内容です。目的は、戦術に関して考え方がバラバラだと思いますので、戦術とは何かということに関して気づきになったらいいなと考えています。戦術とは何かということを確認化して、その後に戦術を体系化する。知識体系としてまとめるところを皆さんとやっていこうと思っています。私も仮説を持っているので皆さんからご意見いただきたいなと思っています。

## 2. 戦術とは

戦術はなんですか？ 皆さんにお話を聞きながら進めていきたいと考えています。

では皆さんにお伺いします。戦術とはなんですか？ 斎藤さん、一言でいうと何でしょうか？一言でなくてもいいですが。

斎藤：私はサッカー部の顧問をしていて、戦術というのは勝つところから考えたチームがとるべきプロセス。

小池：目的達成のためのプロセス。

吉井：自分たちにあったもの。

北田：3名くらいずつ聞いて進めたいと思いますが何か言っておきたい方はいらっしゃいますか？

守屋：シニアリーグで実際に指導しているが、プロとアマの違い。アマチュアは戦力が限られている。

どう組み合わせるか、どう配置するか。どの能力を持った人をどの位置に置くか。アマチュア、特にグラスルーツの場合練習ができない。

中塚：よく技術・戦術というが、技術は「個」に関するもの。戦術には、個人戦術、チーム戦術、グループ戦術があるが、いずれも味方や相手などの他者がいて、他者との関係の中で出てくる概念。だから戦術は「複数」が関わるもの。

戦術

---

戦術とは何でしょうか？

- 勝つまでにとるチームがとるべきプロセス
- 目的達成のためのプロセス
- 自分たちにカスタマイズした、勝つまでにとるチームがとるべきプロセス
- プロとアマの違い
- アマ特有？どう組み合わせるか、どの能力をもった人をどこに配置するか

- 技術：個人選手 一人
- 戦術：複数選手 複数、他者がいて出てくる概念

北田：辞書を見てみると…

戦術

---

戦術とは何でしょうか？

- 参考：戦術の辞書的意味

**せんじゅつ**  
【戦術】  
戦闘を行う上の方策。転じて、ある目標を達するための方策。 「牛歩一」

翻訳とその他の定義

サッカーにおける、  
サッカー・試合をする  
目的は**勝利**

サッカーにおける目的は「勝利」。勝つためにはなんでもしていいかというのと違って、フェアプレーなどあるが「勝」ことはかなりのウェイトを占めるためここではいったん勝つことが目的として話を進めます。サッカーにおける戦術とは勝利のための手段、方策です。

まだ抽象的であるがここから話を進めていきます。

戦術構築は勝利をするために監督必須のスキルである。戦術に関しての問題点は、戦術を品質高く構築できていない。具体的に勝てない、うまくプレーできない、入らないシュートを打ち続ける、シュートの場面でボールを回してしまう。監督が何をやるのかを間違えて伝えてしまっは、選手は間

違った選択をしてしまい勝つことができない。

たとえ戦術が構築できたとしても伝えるスキルがなければ選手たちは動けない。伝わらず練習で何をしていたかがわからない。プロの試合を見て戦術がうまく行ってないと感じることはありますか？それとも選手の問題ですか？

守屋:試合観戦の大半はテレビなのでテレビではわからない。生で見ていると興奮してわからない(笑)

北田:監督によって戦術は違うが、高いとか低いなどのレベル差はつきそうですか？

守屋:レベルの低い人からは、高いか低いかはわからない。

国島:テレビは見ますが、選手出身でも戦術的解説をする方もいれば、ただの応援団になっている方もいる。

斎藤:パスのデータからみると2014ブラジルワールドカップにおける日本代表はパスに関する戦術が間違っていたのではないかと考えている。しかしながら戦術を間違えたのは日本だけではなく。ワールドカップで言えば目的は予選リーグ突破なのか優勝なのかによって取るべき戦術が違ってくる。

北田:今回は1つの試合において勝つことを目的としたところから話を進めたい。何をやるかを間違えている監督も多いのではないかと。さらに深堀をしていくと監督自身の経験や関心から戦術を作ってしまった人も多いのではないかと考えている。

監督自身が戦術を作るにあたってうまくいかない場合は戦術の体系だったものがないからではないか。戦術構築の方法が体系だっていない。根拠なく手探りで戦術構築しているというのが監督の姿ではないか。ということで本日の目的に繋がってくるのですが、戦術の考え方と作り方を体系立てて考えていきましょう。

勝利するためにはどうすればよいか？

中塚:点をとればいい。点をとって点を取られない。なぜならそういうゲームだから。

徳田:ミスをしな。相手にミスさせる。

守屋:中塚先生と同意見であるが「点を取られない」が先ではないか。

守屋(左):プレーヤーではないので…体調を整える。万全の体調で臨む。

吉井:こころの準備をする。

国島:相手より走る。

斎藤:どうやって点を取って、どうやって点を取られないかをいつも考えている。

北田:勝利する方法にはステップがあると考えている。試合終了時点で自チームのゴール数が相手チームより多いことが勝利の定義。勝敗を決定するのはゴール数。勝利の状態になるためにどうすればいいのか。ゴールを奪うにはボールが必要。

### 3. 勝つためにどのような練習をすればよいか

#### 1) 実際を集めて目的と結びつける方法

(事実から練習方法を積み上げていく方法: 帰納アプローチ)

例1) パスがうまく回せなかったのでパスを練習する。

例2) 相手に当たり負けしたので筋トレをする。

メリット: 選手が原因を認識しているので練習をしやすい。

デメリット: 一番良い選択をしているとは限らない。

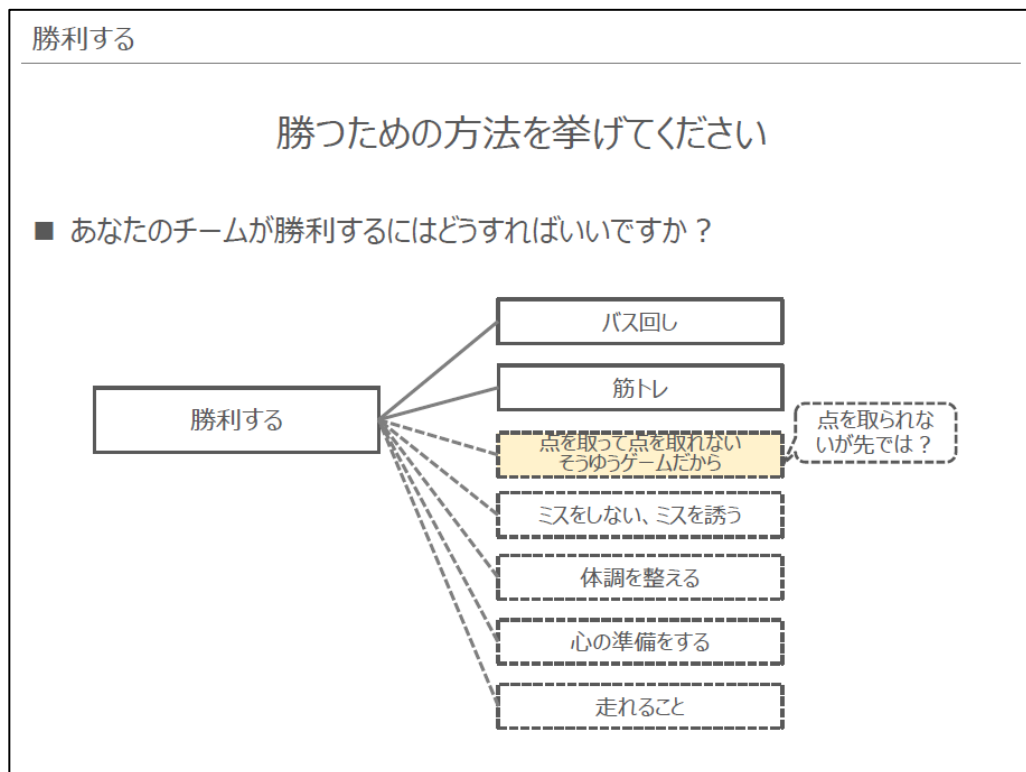
#### 2) 目的を分解して手段と結びつける方法

(演繹アプローチ)

例1) ゴールを奪う、ボールを奪われたい、ゴールを奪われたい、ボールを奪う。

メリット：手段を網羅できるので一番良い選択をできる可能性が高まる。

デメリット：抽象度が高く選手が何をやればよいのかわかりづらくなる。



具体例1) ボールを取られる。

斎藤：技術不足、自分たちのミス。相手の守備戦術が高く跳ね返されてしまう。

自分たちの戦術が機能せず、周りとは合わない。

小池：大きく分けて2つ。ボールを置く位置を理解していない。リスクを取るべき場所を間違えている。

国島：グループとしての約束事があるのか、実行できないのか。

具体例2) ボールを取られなければゴールを奪えるか。

トラップをミスしない、パスを正確に通せる。ゴールは入るのか？

国島：(ゴールを奪える) 確率は上がる。

具体例3) ゴールを奪う、シュートを入れる方法挙げてください。

吉井：ゾーン3 (アタッキングサード) までボールを前進させる。ディフェンスラインの背後を奪う。

守屋 (佐)：枠に (シュートを) 打つ。

守屋：数を打てば当たる (シュートをたくさん打つ)

徳田：コースを見つける。

中塚：ゴールの枠に入れないと入らないし、GKのいない場所に打つ。そのためにゴールに近づいた方がよく、ゾーン3に入った方がよい。また角度は広い方がよいので真ん中からシュートを打った方がよい。

ボールを奪われない

ボールを奪われる理由は何ですか？

- 技術不足、自分達のミス
- 相手のDFの戦術があり、それにはまってしまった
- 攻撃の戦術に落とし込めず一人だけ違うことやる。周りと合わない
- ボールを置く位置を理解できていない
- 仲間との意識の中でリスクととるべき場面を間違える
- グループとしての約束があるかないか、できるかどうか

・ゴールを奪える要素（北田定義）

- ① ボールとゴールの間の人数が少ないこと
- ② （ゴールへの）距離が近いこと
- ③ 向きが前向きなこと

内容

- ① に関しては相手の人数はもちろん、自チームの人数も多いと入らない。日本代表の試合を見るとゴール前が密集している場面を見ることが多い。
- ② （ゴールから）20m以上離れたら確率は下がる。
- ③ 向きに関しては前向きでないと入らない。  
分析するとき軸になるといいのではないかな。こういった軸をもってチームプレーをしなければずれが生じてしまう。

・ボールを奪われないこと（北田定義）

- ① 広いこと
- ② バックパスができること
- ③ 相手より先にボールに触ること

斎藤：ボール回しがうまいだけだとゴールを奪えない。ボールを取られないだけであればゴールから離れたゾーンでパスを回す方がパスの成功率が高い。ただそれだけでは勝てない。

小池：ボールをコントロールすると同時に相手をコントロールするという観点が欲しい。

北田：相手との駆け引きの中でシュートチャンスが生まれる。守備時の要素は攻撃的な要素の反対。ゴールを奪う明確なプロセスが必要。プロセスを作るところが戦術の最終系なのかと考えている。

（スナップショット画像）

良いチームとそうでないチームの差はゴールの決め方を決めているかの違い。

北田：ここまでの話で違和感がある方はいらっしゃいますか？

中塚：最初に戦術は「個」ではないという話があったが、戦術構築の前提としてどのような「個」がいるのかの要素が不可欠。戦術は監督が作るというところから違和感があった。個があるから

こそグループが出てくる。個の姿が見えないまま戦術を構築することは私にはありえない。話の前提として、「個」がすでに仕上がっている状態であれば個が見えなくてもアリだと思われる。

北田：監督がやりたい戦術においては選手1人1人の基情報をいれないといけない。

斎藤：戦術構築の考え方として練習環境という要素もある。勤務校では校庭がテニスコート2面しかなく全面使えるのが週1回1時間、半面使えるのが週1回1時間。パスゲームなどの練習がいちばん人数をかけられるところから、うちのチームの基本戦術はパスをつなぐことだと落とし込むことで選手たちのモチベーションを保つことができる。

北田：戦術構築をするうえで、順位目標であったり、勝ちたい相手、設立時の思いなどがあると考えられるがそういったものありますか？

斎藤：ボールを使える練習は月～金で2回。

守屋：どこで戦うか、トーナメントなのかリーグなのか。

斎藤：リーグ戦であれば昇格を目指し、降格をしない。

北田：具体的にここに勝ちたいというチームはありますか？ライバルというか…

斎藤：筑波大附属さんです（笑）！大敗していますので…なんとカリベンジを！

北田：年齢層は15～18歳。同じ高校。チームのメンバーの志向はどのような感じですか？勝利至上かエンジョイ志向か。

斎藤：勝ち志向は弱いです…サッカーはやりたい、体育の授業ではなくサッカー経験者とサッカーがしたい。選手は19名。

北田：設立時の思いはありますか？チームが大切にしていることはありますか？

斎藤：設立時は勝ち志向も強かったのが都大会出場を目指していた。今は部活を辞めずに最後までやり遂げる。

北田：斎藤さんの理想の試合の進め方を明らかにしたいと思います。

#### 4. ワークショップ

どなたか1人の戦術を作ってみましょう！

北田：こちらのホワイトボードなどを使用するので皆さんお集まりください。

中塚：（筑波大附属高は）最近はワントップでアンカーを1人置いている。

北田：ゴールをする瞬間はどんなものを思い浮かべているのか。それが1つなのか2つなのか。その形をホワイトボード上で示してください。

斎藤：ゴールを奪うために3パターン練習している。1番目は2対1。センターバックの間で止まって足元でもらう。

北田：2対1の形ができたところから重要なポイントは何ですか？

斎藤：オフサイドにならない、止まって受ける。

北田：なぜ止まって受けるのですか？

斎藤：オフサイドにならないためです。止まっている方がパスの難易度も下がる。パスの出しての選手はゴールに近い選手の足元にボールをつける。

北田：足元でもどちらの足に出すかまで教えてますか？

斎藤：相手センターバックのポジションによってゴールに近い足に出すか、遠い足に出してかきだすか。ゴールに近い選手の足元に出すのは大前提で教えている。

北田：パスを出す選手の見極めが悪くてボールを失うことはありますか？

斎藤：あります。

北田：その時に出来るようにする練習はどのようにしますか？

斎藤：チームの練習環境からできない選手をできるようにさせる練習時間を取ることができないので

できる選手に配置換えをする。

北田：戦術を作るときには頭の中を洗い出すことが大切。であるが選手の自由度が大事という意見があつてよい。

守屋：シニアサッカーにおいてオーバー40のチームに足の速いFWがいる。その選手を生かすためにワントップ、カウンター。カウンターをするにはスペースが必要。そのために他の選手には引かしている。4-2-3-1でやっている。オーバー50のチームは技術力もあるが試合のピッチも悪いのでいかにゴール前にボールを進めるか。

斎藤：本校はスポーツ推薦もなく練習時間も限られているので、いつも同じフォーメーションでできないので、その時の選手の能力を行かせる配置を考えている。その時の選手によってゴールまで行くプロセスは違うがゴール前の形は基本的には同じ。

北田：そのような落とし込みがよいのでは。

中塚：練習の考え方だが、ボールが動いている間にどうゴール前で勝負するのかという練習をしている。裏を取るためのチェックの動き、プルアウェイで足元でもよい。もちろんディフェンダーの裏で受けることができればよい。ゴール前でのフィニッシュの練習だが、フィールドのどの場面でも生かせる、そのために練習をしている。この練習でディフェンス陣も裏をとられないなど、マークの3原則などを学べる。高校生年代ではそういったものを学んでほしい。

北田：年代によってどこまで伝えるかは変わってくる。理想の戦術はあるがそれを選手に伝えるにはトップダウン的に選手の能力ではなく、監督（自分）がやりたいことを伝える。関わるべき選手はFWとボランチ。FWに求めることはポストプレーができることを強く要求したい。DF裏へのパスでよいドンで競わせてという戦術は基本的に勝てない。自分たちより強い相手を想定した場合、裏へのパスは有効ではなくポストプレーの方が可能性が高まる。本日お伝えしたいことはすべてです。

## 5. まとめと感想

### まとめⅠ

戦術体系をしっかりと盛り込んで作れると勝てるということをお伝えしたい。しかし様々な制約や年代によってやることは変わってくるので見極めが必要。勝利する状態から考える。その次にボールを奪う、ボールを取られない、ゴールを守るなど。

プロセスの構築の順番はゴールを奪うからです、これが以上まとめでした。

### まとめⅡ

戦術としてゴールを奪うところから考えると、一方人で分けてみると、選手たちは戦術理解、心技体。選手の状況、環境なども考えていきたいと気づきになりました。ありがとうございました。



## 感想

- いまの高校をみるようになってから戦術を深く考えるようになった。制限は多いが、高校生年代はよーいドンより先戦術の要素が強くなる。
- 戦術を盛り込んだ方ができてもらえるといい
- 浮き球の比率が多くなるので、その対応ができるようにしたい
- ポゼッションだけでなく、ポジショナルプレーという言葉に変わっている
- グアルディオラ曰く、早く動かす意味は相手を動かすため
- サイドの選手は開かないような戦術にしている
- ゴールを取らないと勝てないから、そこを起点に考えるのは大事
- それは共感したが、環境や選手の特質に注目すると(イメージを共有するのは大事だが)、それ以外のインプットも大事
- 戦術を漠然と考えていた。上手い、強い/弱い、社会の作り方、弱いなりのチーム・社会のあり方はサッカーだけでなく大事だと思う
- 自分自身が大事にしているところがある。それをうまくできていない。今回の話を聞いて整理できたのが良かった。より深掘りするのか、より深いところまで事例があると良かった。ゴールを取るまでのボールの回し方で参考になった
- 試合を見ていた監督は、選手に戦術なのか心なのかを伝えていると思う。それが上手く伝わっているとうまくいっているなと思えることがある。
- 戦術は幅が広くて、構築方法であればWSの時間ももっとあると良かったかも
- 自分はプレーヤーでないので半分くらいついていけなかった。最後の、ゴールを取ることと、最終形を見てやることは納得した
- ちょっと前のバルセロナ、最近3人強い選手がいた。選手がいてそこから戦術を考えるといい。戦術だけでなく戦略のところに入っていた。オンザピッチに特化した方が良かったのでは。
- ずいぶん昔、高校サッカーで都大会に出たときにチーム戦術にこだわったことがある。選手のスキルは高くない。相手がボールを持っているときに前からプレッシャーをかけて洗いなラインでゲームを進める「アタッキング・ディフェンス」を試みた。守備範囲の広いGKと判断力のあるセンターバック、ボールを追いかけてまわす力のある守備的MFと、裏を取られたときに対応できる足の速いサイドバックがいたからできた。プレーヤーありきで戦術を考える観点も入れるべき。